

研究主題

主体的に学習に取り組む生徒の育成 ～ 言語活動の充実を通して ～

主題設定の理由

平成 20 年答申において、言語は知的活動（論理や思考）の基盤であるとともに、コミュニケーションや感性・情緒の基盤であるとされている。このため、各教科等において言語活動を充実する際には、このような言語の果たす役割を踏まえた指導を行うことが大切である。また、言語活動が単に活動することに終始することのないよう、各教科等のねらいを言語活動を通じて実現するために意図的、計画的に指導することが重要であるとしている。このような観点から、言語活動を充実させることで、学校での学習がより深まると考え、本主題を設定し、研究を進めることに平成 23 年度から取り組みを始め、今年度も継続することとした。本年度は、今までの研究の成果と課題を踏まえ、各教科において指導法の改善や教材・教具の工夫等を行い、生徒一人ひとりの学習意欲を高めることによって主体的に学習に取り組む生徒の育成を目指し、研究を深めていきたい。

研究の内容

- (1) 思考力・判断力・表現力等を育む授業や活動の創造し、表現力を身につけさせるための言語活動の充実を図るための手だての研究。
- (2) 確かな学力向上を目指し、基礎的・基本的な知識・技能の習得と定着を図るための学習習慣の確立（家庭学習）を図るための研究。
- (3) 学習効果を高める生活習慣、学習規律の確立するための手だての研究。

研究の具体的内容と方法

- (1) 思考力・判断力・表現力等を育む授業や体験活動を通して、表現力を身につけさせるための言語活動の充実・表現力の育成を図るための手立てを踏まえた活動づくり。
 - 思考力・判断力・表現力等の育成を目指した授業の展開。
 - 各教科の授業，特に単元の導入において，指導形態・指導方法・教材教具等の工夫。
 - 思考力・判断力・表現力等を育む事ための授業として，授業実践を行い，成果と課題を検証する。

(2) 確かな学力向上を目指し、基礎的・基本的な知識・技能の習得と定着を図るための学習習慣の確立（家庭学習）

学級・学年において、家庭学習を中心に生徒の学習習慣の確立を促すための工夫をする。

- 生活・学習実態調査を実施し、生徒の家庭学習等の実態を把握する。
- 学年ごと課題を把握し、解決に向けて家庭学習に取り組む。
- 定期テスト取り組み期間において、到達目標とその達成のための課題設定の取り組み
計画作成し、目標達成のための取り組みをはかる。
- 状況に応じた個への支援。

(3) 学習効果を高める生活習慣、学習規律の確立

- 学習規律の形成を図るための学級指導を実施。
- 学習効果を高める基盤となる学習習慣や生活習慣を見直し、挨拶、授業規律、清掃活動、給食指導を展開し、学習の基盤となる心を育む。
- 学習環境を整える。

成果と課題

○各教科において、一人一実践を行い、報告・検証を行った。それぞれが教科の特性を生かし、言語活動を意識した授業を実践する中で生徒が主体的に考え、自らの考えを発表する機会を増加させることができた。本年は言語活動という大きな枠組みの中で行ったために言語活動という枠組みの中では実施することができたが、より共通した力を養う重点的な取り組みにすることができなかつた。今後は、生徒の実態を踏まえた中で、より焦点を絞った形で具体的かつ効果的な活動を全教科で取り組んでいくことが望ましいと考えられる。

○各学年で生徒の実態に即した課題等を設定した結果、家庭学習の量も増加傾向にあり、学習に取り組む姿勢が向上した生徒が増えたといえる。しかし、未だに家庭での学習が定着していない生徒も見られるので、生活・学習アンケート調査結果をもとに日常生活の改善を促していくことが望まれる。

○QUの分析とフィードバックにより、全職員の共通理解を十分に行うことができ、その結果を踏まえて、クラスや個に応じた指導を行う努力をすることができた。QUアンケートを実施する時間や時期によって結果にも差が生じるので、実施時期等の検討も必要と考えられる。

研究主任 武井善史